

韓国環境部プレスリリース 2019 年 12 月 18 日付

京畿道坡州市民統線内野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1144180&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

▷坡州で 17 件目、全国的には 47 件目

環境部所属国立環境科学院（院長ジャンユンソク）は、京畿道（キョンギド）坡州（パジュ）津東面（チンドンミョン）民統線内で発見された野生いのしし弊死体から ASF ウイルスが検出されたことを 12 月 18 日公表した。

当該弊死体は、野生いのししの移動を防ぐために、ASF 感染・危険地域に設置した 2 次フェンス内で 12 月 16 日午後 5 時ごろに軍によって発見された。坡州市は、野生いのしし ASF 病標準行動指針に基づいて、現場を消毒して弊死体を埋却した。

国立環境科学院は 12 月 18 日、弊死体で、ASF ウイルスを確定し、その結果を関係機関に通知した。坡州で 17 件の野生いのししにおける ASF が確定され、全国的には 47 件になった。

ジョンウォンファ国立環境科学院生物安全研究チーム長は「2 次フェンス内は野生いのししが ASF に感染している可能性が高い地域で、感染弊死体の発見が続くかもしれない」と述べた。

以上